

昭和45年農業基本調査

農家意識調査結果について(その2)

県統計課農林統計係

前号の目次
I 将来の農業経営について
II 協業経営
1 協業経営を実施している世帯
2 協業経営を実操していない世帯
III 将来の主な農業部門

IV 農業経営上困っていること

農業を経営するうえで困っていることは、どのようなことか9項目についてきた結果は第1表のとおりである。

第1表 農業経営上の障害の割合 (単位%)

区 分	県計	県北	鹿行	県南	県西
耕地不足	19.5	18.6	21.8	21.7	17.4
農道不備	29.6	29.4	28.3	29.6	30.7
耕地分散	29.4	26.5	29.5	31.7	31.4
用水不足	19.5	16.7	18.7	22.5	20.9
排水不良	15.8	12.8	16.1	18.4	17.4
労働力不足	33.6	36.9	39.2	30.7	29.0
資金不足	14.8	14.0	22.1	14.4	12.9
協業や共同作業 ができない	3.6	3.4	5.8	3.4	3.0
農畜産物の価格 不安定	41.6	36.2	51.9	44.3	41.8

注) 割合はのべ数をもとに算出してある。

このように、「農畜産物の価格が不安定」と「労働力不足」がどの地域においても高率を示し農家にとつて深刻な問題となつている。特に、鹿行地域については「価格が不安定」が50%以上を示し、価格安定に対する要望が強い。

「労働力不足」は、どの地域においても30%台を示しており特に鹿行地域は40%近い高率を示している。

V 農休日

(1) 農休日を設けている農家

農休日を設けている農家は、40,180戸で全体の2割である。これを専兼別にみると専業農家22.7%、第1種兼業農家45.4%、第2種兼業農家31.9%となつている。

また、これらの農家が1カ月何日くらい農休日をとつているかきいた結果は次のとおりである。

第2表 農休日の実施割合 (単位%)

区 分	計	1日	2日	3日	4日以上
県 計	100.0	37.9	43.1	11.9	7.1
専 業 農 家	100.0	36.8	45.0	12.8	5.4
第1種兼業農家	100.0	39.4	42.8	12.0	4.8
第2種兼業農家	100.0	36.5	40.9	11.0	11.6

(2) 農休日を設けていない農家

農休日を設けていない農家は全農家の約8割である。これらの農家について、今後、農休日を設けたいかどうかについてきいてみると「設けたいと思う」と答えた者が、52.7%と半数以上あつた。これを専兼別にみると、次の表のとおりである。

第3表 農休日を設けたい農家と割合 (単位%)

区 分	「設けたいと思う」	「設ける場合何日か」				「設けたいと思わない」
		1日	2日	3日	4日以上	
県 計	52.7	9.4	49.8	30.4	10.1	47.3
専 業	63.0	9.0	49.2	31.7	10.1	37.0
第1種兼業	62.2	10.1	51.1	29.9	8.9	37.8
第2種兼業	37.8	9.5	47.8	30.4	12.3	62.2

VI 農家への嫁ぎ先志向

最近における農家の嫁ぎさんは、ますます深刻な問題となつているが、こうした状況を背景に農村における農家への嫁ぎ先志向を経営主に問うた。

結婚年齢にある娘(満16才以上)をもつ農家は65,804

戸で全体の34%である。

「農家へ娘を嫁がせたいか」については、次の表のとおりであるが、一般的に娘の気持を尊重して「娘したい」という意識が強い。また「嫁がせたい」という農家は、6.8%と1割に満たなく、非常に低い率を示しており今後の農業経営に大きな不安をいだかせる。

第4表 農家への嫁ぎ先志向調査の割合 (単位%)

区分	本入 しだい	嫁がせ たい	条件によ つて嫁が せたい	嫁がせ たくない	わから ない
県計	63.1	6.8	4.2	18.6	7.3
専業	64.9	10.7	4.4	12.7	7.3
第1種兼業	65.7	8.0	4.8	15.3	6.2
第2種兼業	59.0	3.6	3.4	25.4	8.6

VII 一番生活を改善したい点

農村における生活改善意欲について調査した結果「住宅」とこたえたものが専兼別を問はず60%前後を示して

いる。

また、地域別にみると「住宅」について鹿行地域は40%を示し他地域より低率であるが「付属舎」、「因習」について他地域より高くなっている点が特徴となつてい

第5表 改善をしたい点の割合 (単位%)

区分	計	食事	衣類	住宅	付属 舎	家族 関係	因習
県計	100.0	4.7	1.5	59.4	17.8	4.8	11.8
専業	100.0	4.9	1.6	57.8	19.2	3.2	11.3
第1種兼業	100.0	4.5	1.5	60.1	18.8	4.2	10.9
第2種兼業	100.0	4.8	1.5	59.3	16.0	5.3	13.9

VIII 耐久消費財の所有状況

農家における生活の実態を知るため次のような耐久消費財の所有状況をみてその普及度により推測した結果は、次の表のとおりである。

第6表 耐久消費財普及状況 (単位%)

消費財名	県計		県北	鹿行	県南	県西
	昭和45年	昭和40年				
電気洗たく機	88.4	46.5	87.3	85.8	87.6	92.4
電気冷蔵庫	75.8	15.4	75.0	69.9	81.5	63.3
電気炊飯器	51.8	18.4	49.2	50.7	56.8	50.7
掃除機	22.7	4.0	24.7	20.1	24.1	19.3
ステレオ	14.3	3.2	15.3	12.4	14.8	13.4
ラジオ	43.7	50.9	46.5	46.6	41.6	40.3
ピアノ・オルガン	6.7	2.2	8.4	3.2	7.3	5.2
テーブコーダー	11.5	2.7	13.1	9.0	12.5	9.1
ミシン	71.1	57.7	70.5	67.0	73.7	71.4
電気こたつ	79.3	27.9	75.4	82.5	83.2	79.3
扇風機	73.2	22.4	63.6	66.1	81.8	81.9
ストーブ	54.7	7.6	46.1	47.7	62.2	63.0
白黒テレビ	88.6	89.5	87.7	89.7	88.7	89.3
カラーテレビ	13.0		13.2	13.2	13.7	12.0
乗用車	28.9	11.4	25.4	25.5	32.8	31.6
小型トラック	23.1	—	15.7	34.4	28.1	23.6
自動二輪車	48.4	37.8	44.7	52.4	48.9	51.6
自家用水道	74.5	—	68.0	83.7	74.2	80.8
ガス湯沸機	14.3	—	14.8	14.7	15.8	11.4
電話	70.7	43.7	64.2	75.7	73.5	75.4